

---

# フェア・ラブ

Aco

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フェア・ラブ

### 【Nコード】

N4204A

### 【作者名】

ACO

### 【あらすじ】

贅沢なんてできない貧乏な荒井真希。「恋愛に金は関係ない！」と、同級生の医者の子に恋しているが、いとこの咲の存在で自信をなくしてしまう。そこに能天気な隣人の正人も絡んできて…？

## 1：貧乏人とリツチないところ

窓の外に雪がちらついている。

もうすぐ春なのに……と生徒たちは不満を言いながら、授業を受けていた。

とはいっても、皆仲良くマジメに……というわけではない。

ふざけた奴や居眠りしてる奴だっている。

そんな奴を見ていると、マジメにやっている生徒はイライラしてくるものだ。

まったく、授業中に化粧かよ。第一アಂತ中1でしょうが。

荒井 真希は、横目で自分の”いとこ”を睨みつけた。

真希のいとこ、藤村 咲は、窓際の目立たない席で熱心にリップを塗っている。

先生は気づいているのか気づいていないのか。

どうせ、気づいていても何も言わないのがオチだろう。

何ていったって、咲の母親は今若者に人気のコスメブランド「Fee 1」の創立者なのだから。

学校にも多額の寄付をして色々とワガママを言っているらしい。

こういうわけで咲は、先生のお気に入りであり、校内一の金持ちでもあるわけだ。

チャイムが鳴ると、女子達が一斉に咲の机に向かう。

「わあ、このリップって新色？かわいいー」

何とも「イマドキ」な会話が弾みだす。

真希だって、入ってみたいと思う。

自分だって、「イマドキ」の子になってみたい

…

だが咲は、真希をキツと睨みつけ、吐き捨てるように言った。

「ちょっと、何ジロジロ見てるわけ？貧乏人のくせにー!!」

真希はため息をつく、席についた。

”貧乏人”になって、もう5年は経つのかな…

5年前、真希の父は会社をクビになった。

それからすぐに、母は近所のスーパーでパートを始めた。

父の新しい就職先は見つからず、今に至る。

収入が母のパートの給料だけなのだから、生活は苦しい。

贅沢なんて何一つ出来ない。

こんな境遇にあるから、リッチな自分のいところが羨ましくなること  
だってある。

でも、真希はそんなそぶりも見せず、ひたすら明るく振舞っていた。なぜなら、好きな人が居るから。

こんな私でも、恋していいのかなあ。

真希にとって【あの人】は高嶺の花だった。

王子様に恋するようなものだった。

叶わぬ恋だと知っていても、どうしても諦められない。

「あーあ。いつからこんなに諦めの悪い女になっちゃったんだろ……」

諦められないから、ただひたすら突っ走って行く。  
貧乏とか金持ちとかは関係ない。

「恋愛ぐらい、正々堂々やらなきゃ……」

真希はそう、自分に言い聞かせた

1：貧乏人とリツチないところ（後書き）

はじめての執筆で緊張です…！

拙い文章ですが、宜しく願います。

## 2：片思いのお相手

真希の片思い相手は、両親共に医者だった。

医者ひとり息子で、噂によると将来を期待されているらしい。

中学校も名門の私立に入る予定だったが、母親が電車通学を嫌がったため、地元の中学に通うことになったとか。

もちろん、学年内でも人気の高い男子だった。

「田宮」

休み時間になると、男子達は彼の方へ群がる。

田宮 伊央イオは、男子にも好かれている。

「田宮ってかっこよくない？」

「本当に。優しいしね」

でも真希は、ただかっこいいかっこいいなんて言ってる女子達と自分を、同じにされたくはなかった。

私が一番、田宮の優しさを知ってる

忘れるはずなかった。

去年の冬。

田宮と初めて会ったあの日を。

「…なーにニヤついてんだよ」

帰り道、田宮のことを考えていた真希の肩に、誰かが手を置いた。  
真希は呆れたようにため息をつく。

「ちょっと、正人！今いいところだったのにー」

真希の幼馴染で、団地の隣人、北村<sup>キタムラ</sup> 正人<sup>マサト</sup>。

正人の母親は病死して、今は父親と二人で暮らしている。

「なーにが”いいところ”だ。どうせ『田宮と私で××…』なんて考えてたんだろ？妄想女め」

「ちょ…っ！そんなんじゃないわよ！！確かに昨日はそうだったけど…」

「じゃあ何なわけさ？田宮のことについての考え事だろ？」



真希は仕方ない、と言わんばかりに肩をすくめた。

「…田宮と初めて会ったときのこと、思い出してた」

「ああ…あのことが」

正人はマフラーを巻きなおすと、真希が歩くスピードを遅くしたので歩調をあわせた。

「去年の…今頃だっけ？」

家出して、駅前をさ迷っていたお前を俺が探しに来て…」

「嫌がって泣いてたところに、田宮がいたのよね」

去年の二月初旬のこと。

駅前には、今日みたいな粉雪が、ちらついていた…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4204a/>

---

フェア・ラブ

2010年10月21日11時19分発行